

4-1-6-8 眼科

1. 診療活動

1.1 外来

高度医療の目的から、外来は他院眼科で当院での診断、検査、治療を要すると判断され紹介された場合に限っており、北海道から沖縄まで全国からの紹介を受けている。ほぼ1日当40名の診療を行っている。専門外来としては、まずロービジョン外来を行って、全国的なネットワークを形成している。

また、国立病院機構東京医療センターとの共同で角膜移植を含む難治性角膜疾患の治療のための角膜専門外来を設けている。

1.2 入院

ほぼすべてが手術目的の入院となっている。対象疾患は、斜視、眼瞼疾患などもあるが、白内障、緑内障、網膜硝子体手術などの内眼手術が半数以上を占める。いずれも、小眼球や先天異常を伴う難治性症例であり、25G システムを始めとした最新の機器で検査・手術を行っている。ことに未熟児網膜症の硝子体手術は年間約50例を行い、復位率は70%と好成績である。さらに2005年より、重症未熟児網膜症に対して早期硝子体手術を開始し、きわめて良好な網膜復位率と視力予後が得られるようになった。全国から紹介があり、早期手術の概念が徹底したことによってstage5まで網膜症が進行する例が激減したことは大きな成果である。また、小児角膜移植手術も定期的に行っている。

2. 研究活動

臨床研究は、弱視・斜視疾患の病態研究、先天白内障、未熟児網膜症、網膜剥離、先天異常などの病態や治療成績の検討を行い、学会あるいは誌上発表を行った。

基礎研究では、形態形成遺伝子の機能解明、網膜の再生の研究を進め、学会あるいは誌上発表を行った。